

株式会社日本能率協会総合研究所
厚生労働省・令和3年度 社会福祉推進事業
重層的支援体制整備事業に係る人材養成研修・分野別研修(自治体職員向け研修)

地域づくりに向けた取組について

2021. 01. 07

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター (CLC)
池田昌弘

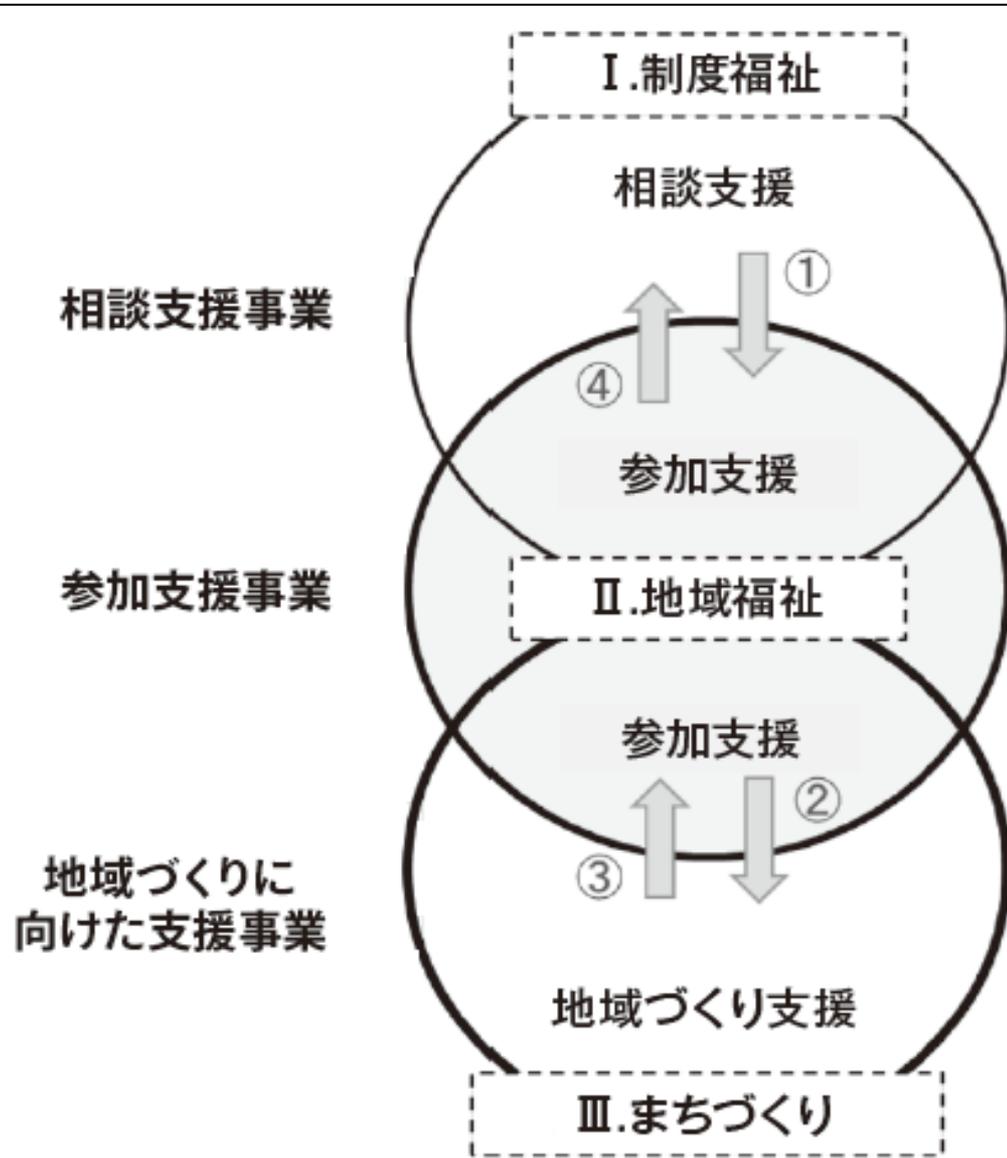


図1 重層的支援体制整備事業の一体化の構造

厚生労働省 2020年度社会福祉推進事業

『地域共生社会の実現に向けた地域づくりにかかわるコーディネーター養成のための研修プログラム開発事業』

「地域づくりのコーディネートを担う人材育成のための カードワーク研修プログラム」(CLC)

「地域社会の状況」

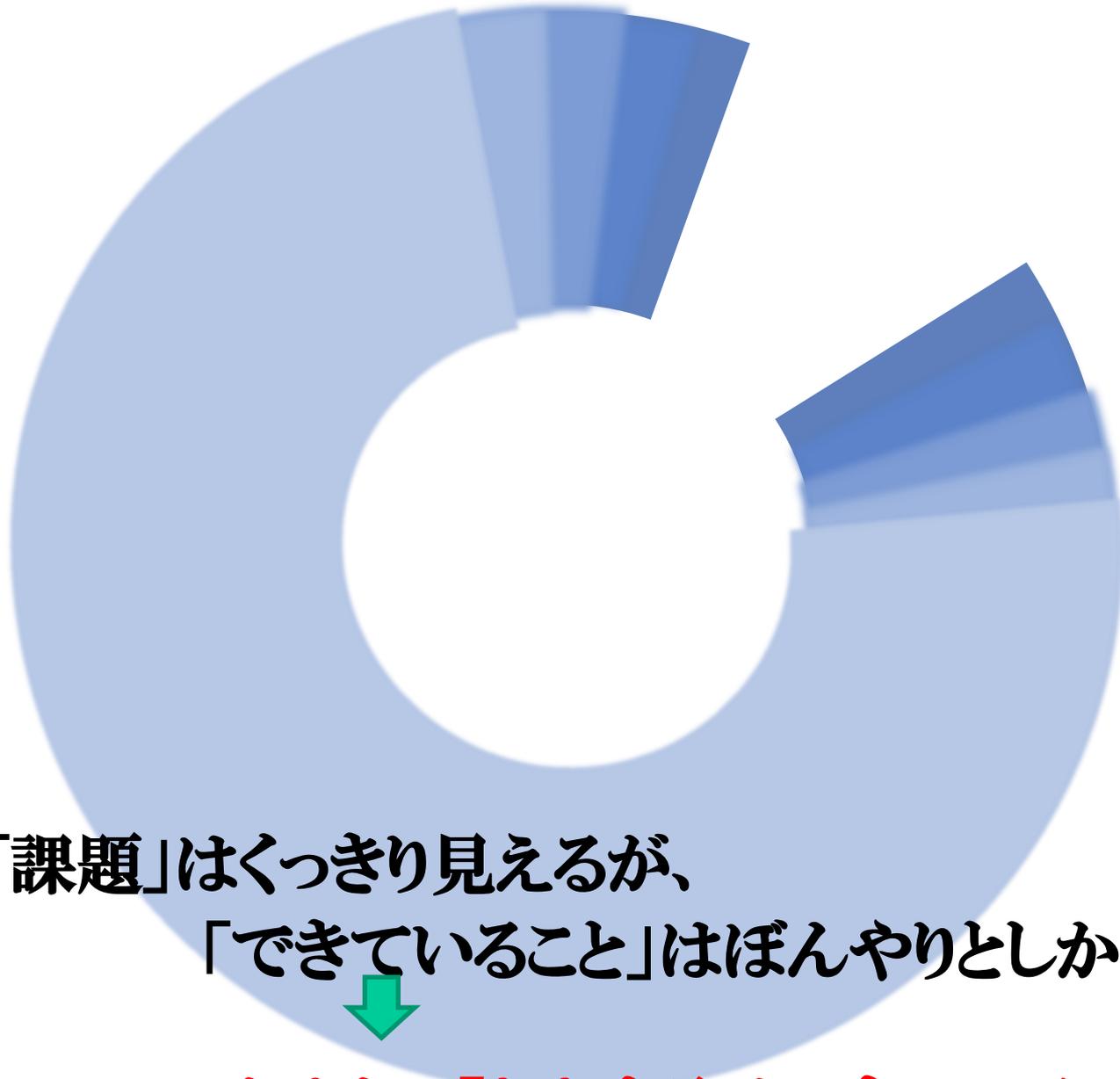
- 長期にわたる「人口減少」社会
- 「少子・高齢化」による逆三角形型の人口構造
- 住民自治組織の加入率の低下、解散の危機
- 集落など「小地域の維持困難、消滅危機」
- 全世代における「単身世帯の増加」
- 居住者の多様化、ひきこもり・8050など
孤立、複雑・複合課題の増加
- 「家族・親戚での支え合いの限界」
- 終活など「つながりの断捨離」を推奨する風潮
- 「つながりを育むこと・支えられることが苦手」
それを補う「地域生活の知恵」の希薄化

どこが気になりますか？



「課題」はくっきり見えるが、

「できていること」はぼんやりとしか見えない



「課題」はくっきり見えるが、
「できていること」はぼんやりとしか見えない



しかし、「おおよそはできている」

**福祉関係者は、
地域を知るために
まずは、ニーズ調査（課題探し）から
始まるが、
課題解決から地域づくりを始めると
住民の活動は行き詰まりがち！**

水の入っていないところが気になる？



**半分も
入っている！**

みんなで

✧ 暮らしぶりを

✧ 話し合う、

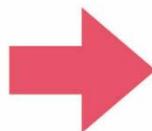
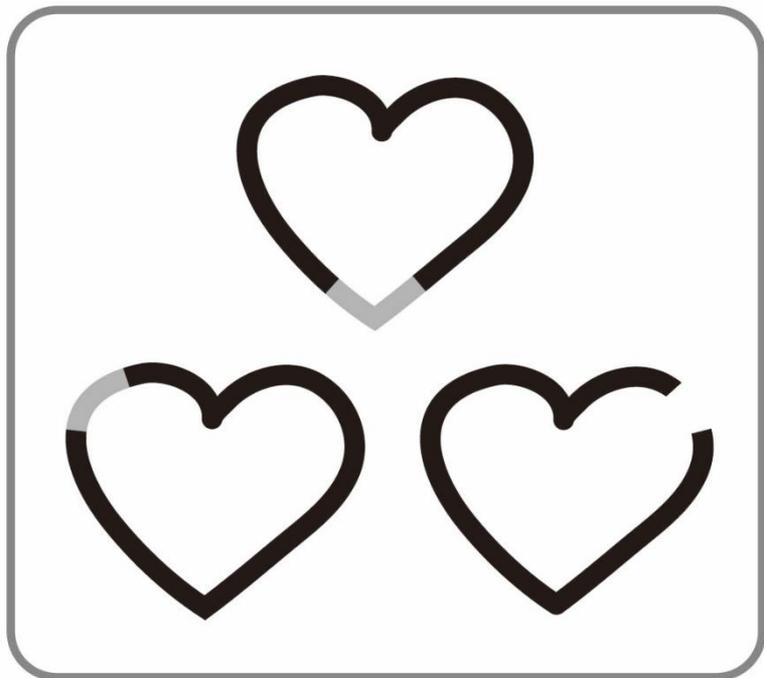
✧ 対話が

地域を

元気にする

**住民は、楽しいからつどい、
関係を育み、
支えたり・支えられたりするなかで、
課題も解決してる！**

気心知れた友人同士で、お互い気にかけて、
それぞれができることで、支え合っている！

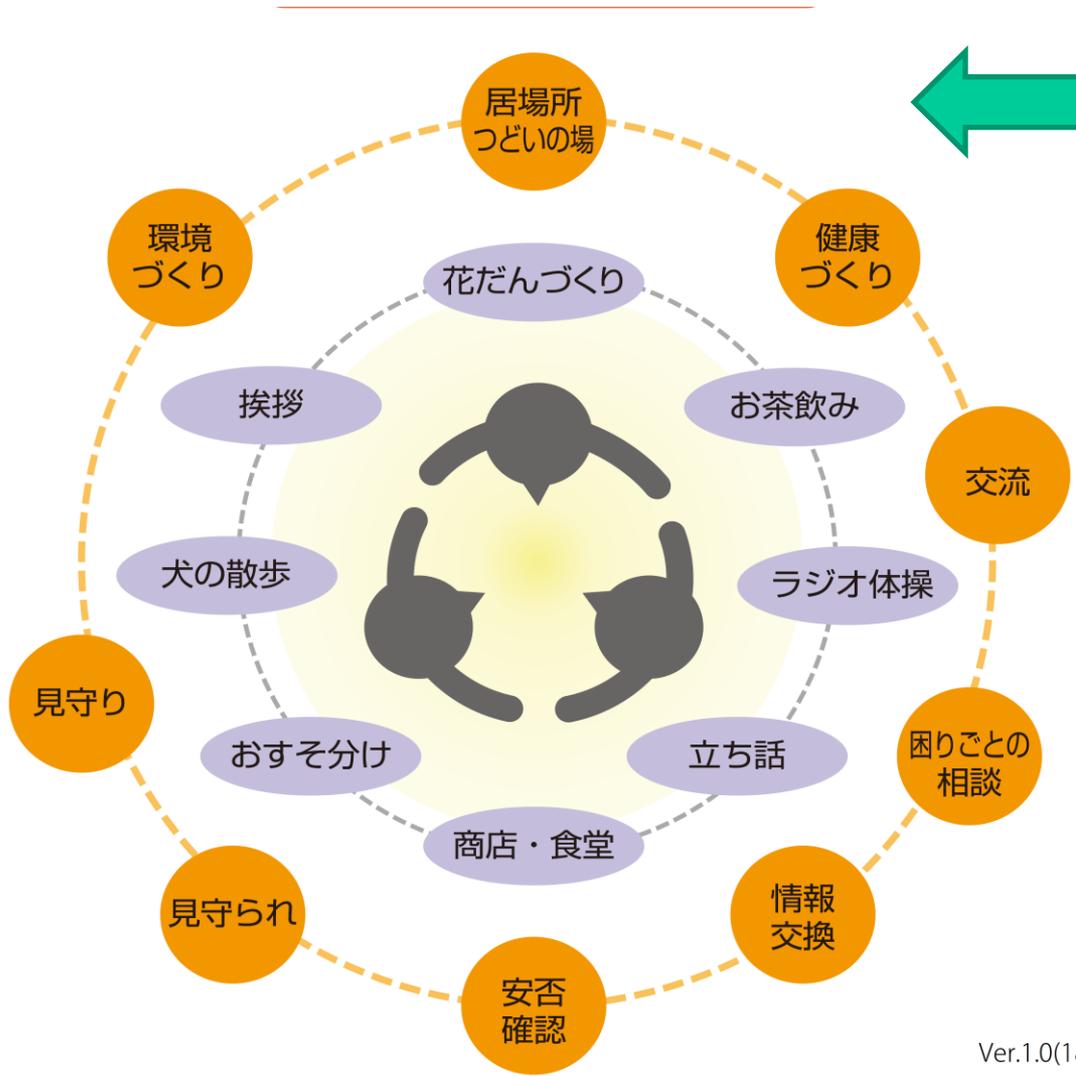


友人同士の支え合いを、
あえて「生活支援サービス」に
置き換えてみたら… 

- ◆ 2～3人でのお茶飲み ⇒ 通いの場(超ミニミニサロン)
- ◆ 昨日も顔を見かけなかったけど… ⇒ 声かけサービス(安否確認)
- ◆ ついでに乗せていってあげるよ ⇒ 移動サービス(送迎)
- ◆ 必要なもの買ってきてあげるよ ⇒ 買いもの代行サービス
- ◆ ついでに、ゴミ出しておくね ⇒ ゴミ出しサービス
- ◆ 体調心配で、食事のおすそ分けね ⇒ 食事(配食)サービス

 「一人ひとりのニーズにフィットしたオンリーワンのサービス」!

ふだんの暮らしぶりを教えてもらおう！



一人ひとりが持つ、
多様な“つながり”が、
人と人をつなぎ、
お互いが気にかけて、
ちょっと困ったことがあると
支えたり支えられたりする
支え合いの源になっている！

「新たなつながりの場を
つくる」ことにばかり
気をとられることなく、

すでにある個々の「つながり」
の『発見』と、そのなかで
行われている
気にかけてや支え合いの
『意味』や『価値』を
地域みんなで共有する！

支え合いには「見える支え合い」と、
ほかの人には「見えにくい支え合い」
があつて、

(「自宅のなかに招き入れるような、気の置けない人」などとの)

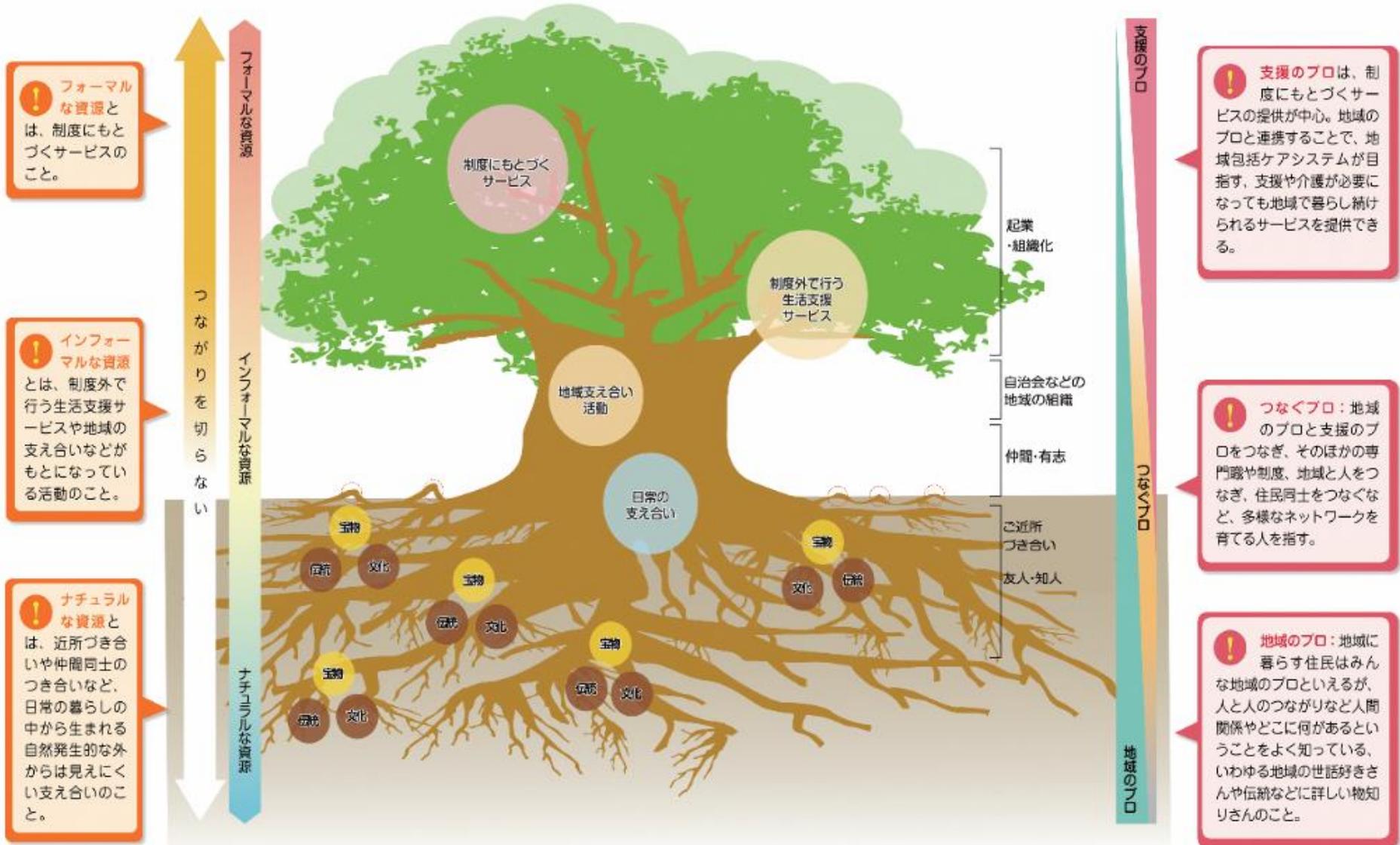
「見えにくい支え合い」こそが
支え合いの基盤となっている！



だから、住民の暮らしの場に出かけて
暮らしにまぜてもらおうことから始める！

地域づくりの木

第5回 地域共生社会推進検討会
池田昌弘構成員 提出資料（抜粋）①



地域づくりの木



住民の、「その地域に暮らすための

『知恵・工夫・技(術)』などを活かす」視点を軸足に！

制度化など「仕組みづくり」はだけど、
その地域で暮らし続けるために、
住人は「知恵」を働かせ、
暮らしのなかでさまざまに「工夫」して、
そのための「技(術)」も、地域みんなで育んできた(いる)。

制度・サービスの充実が、
地域や住人の、もともと持っていた力を奪うことのないよう、
住民の力を再発見、再評価して、
あたためて地域力を高め合うことが、
個別支援を孤立化支援にさせない

『個別支援と地域づくり支援のバランス良い地域づくり』につながる！

「地域住民同士のケア・支え合う関係」には、「インフォーマルな資源」と「ナチュラルな資源」があり、「ナチュラルな資源」の意識化が重要。

- 地域基盤を維持強化していくためには、地域住民の支え合い（互助）をベースとした地域づくりを進めていくことが重要となる。
- 「地域づくりの木」の図のとおり、地域を支える社会資源は、「枝葉」・「幹」・「根っこ」に分かれていて、それぞれフォーマルな資源（制度に基づくサービス）、インフォーマルな資源（制度外サービスや町内会やボランティアによる活動等）、ナチュラルな資源（近所づきあいや、そこから発展した日頃の生活の支え合い等）に分類される。
- 地域づくりの木で、枝葉や幹が茂るには、根っこの部分が大きく広がり、枝葉や幹をしっかり支えていることが重要。ナチュラルな資源は、日常の営みとして、特段意識されずに行われていることが多いため、住民も専門職も、このたいせつさに気づかない場合が多い。
- これを「地域のお宝」と呼び、地域づくりを進めるためには、地域の宝物を知ること、見つけ出すことから始め、これを見える化、見せる化し、住民相互で共有するプロセスを継続していくことが重要。
- 地域づくりは、「地域のプロ」である住民と「支援のプロ」である専門職を、「つなぐプロ」である自治会長や民生委員等の地域のリーダーと生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）等がつなぎ、一緒になって進めるもの。
- 高齢者が増え、介護保険や医療保険等が増加することで「枝葉」は大きくなり、一方で地域のつながりが弱くなって「根っこ」が縮小するとこの木は倒れるが、この木を倒さないようにするためにも、「枝葉」は適切に伸ばし、「根っこ」は厚くしていくことが求められる。

(介護保険サービスを含む)「個別支援」の強化は、
「つながり」の希薄化を招く！

「つながり」を豊かにする
「地域づくり」の支援が重要！



制度・サービスは
ちょっと離れたところへ、ところから

日常的に気になる、気にかけて合う関係

個別支援の強化

孤立化支援となることも！

専門職やサービスに任せておけば安心！
【安心すると無関心になる】

- ◆ 個別支援のサービス提供だけでは、「支え合い」は生まれない！
- ◆ 「制度」によるサービスだけでは、つながりも築けない。

皆で散歩をしませんか！

2月にスタートした「お茶の間カフェもいた」ですが、新型コロナの関係で3月から休止状態が続いています。

せっかく皆で集まって楽しい時間が過ごせていたのに、これではまた元の生活に戻ってしまい、体調の悪化を招く恐れがあります。

（そこで、「3密」を避けて皆が楽しめることはないか考えた結果「区内を皆で散歩をしたらどうか」と考えました。

天気の良い日だけ行い、コースは裏面に記す通り、集会所をスタートして岩神公園で小休止し、集会所に戻って来るコースです。

時間は目安と考えてください。参加は自由です。ご自分の都合に合わせて途中から参加して、途中で抜けることも可能です。

各自、動きやすい服装で参加してください。できれば「飲み物」を用意して参加すると良いと思います。
また、マスクの着用をお願いします。

当面は都合のつく限り木村が先導します。
天気が良ければ26日(月)からスタートしたいと思いますので皆さん声を掛け合って参加してください。

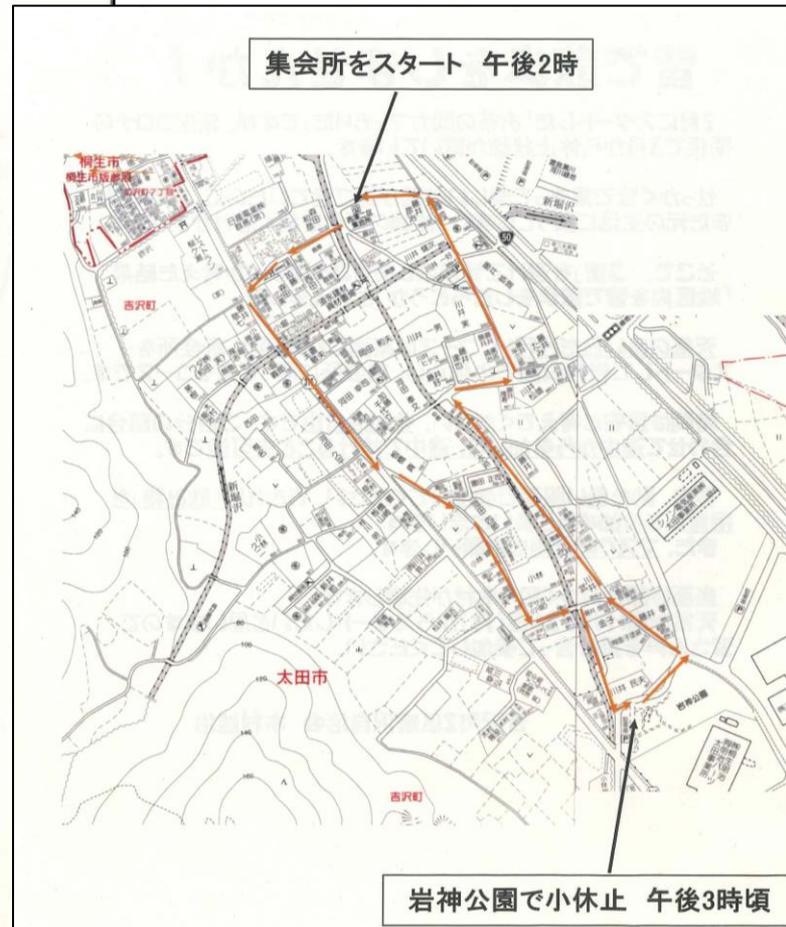
吉沢町2区唐沢自治会

区長が作成したチラシ

お茶の間カフェは休止 → お散歩会を開始

(資料提供：社会福祉法人太田市社会福祉協議会)

お散歩のコース



コロナ前

参加者
サポーター
地域の役員

事業や行事を運営する
ために人を集める

お茶の間カフェ
地域の行事

集める

受け身・交流の場・責任

お茶の間カフェ、
地域の行事が全て
休止！

コロナ禍

吉沢町二区 お散歩会
西矢島町 竹馬の友

それぞれの人の意思で集まる
集まりたい！ やりたい！

参加者
サポーター
地域の役員

集まる

自発的・個人・自己判断

ひとり暮らし3人のウォーキング 九合地区 西矢島町

開催日 毎日



こちらのなかよし3人組は、みなさん一人暮らし。（日中一人暮らしを含む）毎日のウォーキングは夏は日が落ちる頃、冬は朝少し暖かくなってから始まります。また、その日の天気不安があると電話で連絡を取り合いながら時間を決めて歩きます。おおよそ4キロの道のりを颯爽と50分くらいで歩き、年齢を感じさせません。おしゃべりも止まりません。街路樹は植栽されたところからみると大きく立派になったそうです。



野口弘子さん (77) 上原富子さん (75) 岩崎勝江さん (78)

盲役からそれぞれが、畑仕事や手芸、地域のサロンへ参加し、毎日を忙しく楽しく過ごしています。これも元気の秘訣です。

ひとり暮らしでも安心！

毎日休まずの「3人のウォーキング」ですが、身体を鍛えるだけでなく、気の合う仲間同士、おしゃべりを交わすことで、楽しく続いています。

これは、介護予防だけでなく、元気に生き生きと暮らし続ける自然に発生した3人のサロンです。また、お互いの見守りにもなっていて、誰かに何かあれば、すぐに気が付けます。

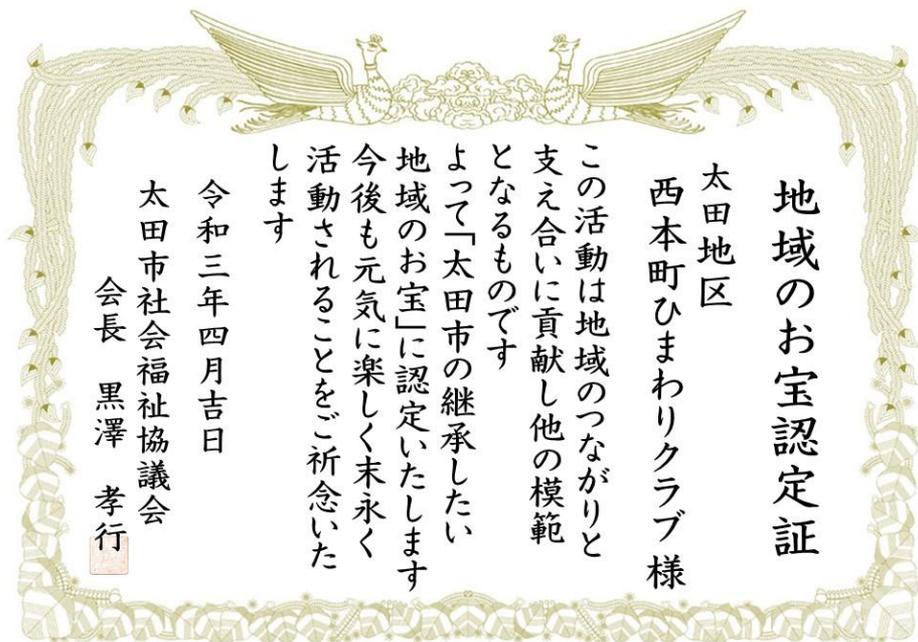
地域の中でひとり暮らしでも安心して暮らせる「地域のお宝」です。

こちらの記事は令和3年10月に取材した内容です



パネル & 認定証 バージョン

認定証のみバージョン



地域のお宝認定証

太田地区

西本町ひまわりクラブ様

この活動は地域のつながりと支え合いに貢献し他の模範となるものです

よって「太田市の継承したい地域のお宝」に認定いたします
今後とも元気に楽しく末永く活動されることをご祈念いたします

令和三年四月吉日

太田市社会福祉協議会

会長 黒澤 孝行

コロナ下の関わりから見たこと

- 住民は、気になる人を、いままで以上に気にかけて合っている。
- 専門職は、コロナをできない言い訳しないで、
コロナ下だからこそ、
「つながりを切らない・つながりを豊かにする」ための関わりを！



- ◆ 「つながり」から生まれる「支え合い」は、多人数ではなく、せいぜい4、5人、多くは2～3人で行われている。
- ◆ 「支え合い」の関係(ナチュラルな資源)は、「見えにくい」(というより「見えない」)。こうした関係を育むプロセスや機会を奪わない支援(邪魔をしない支援)もたいせつ。

「集める」以上に「集まる」がポイント！

(参加人数や開催回数を競うことの「落とし穴」に気づく！)

宮城県多賀城市 (令和3年10月1日現在)

「生活支援体制整備事業」を 活かした地域づくり

【特徴】

- 地域包括支援センターを中核に
自治会区域を基盤とした地域づくり
- 「サービスづくりではなく地域づくり」
官民協働による「地域のお宝（つながり）
探し」と「地域のお宝発表会」による
支え合いの地域づくり

市域面積 / 19.69 km²

総人口 / 62,164人

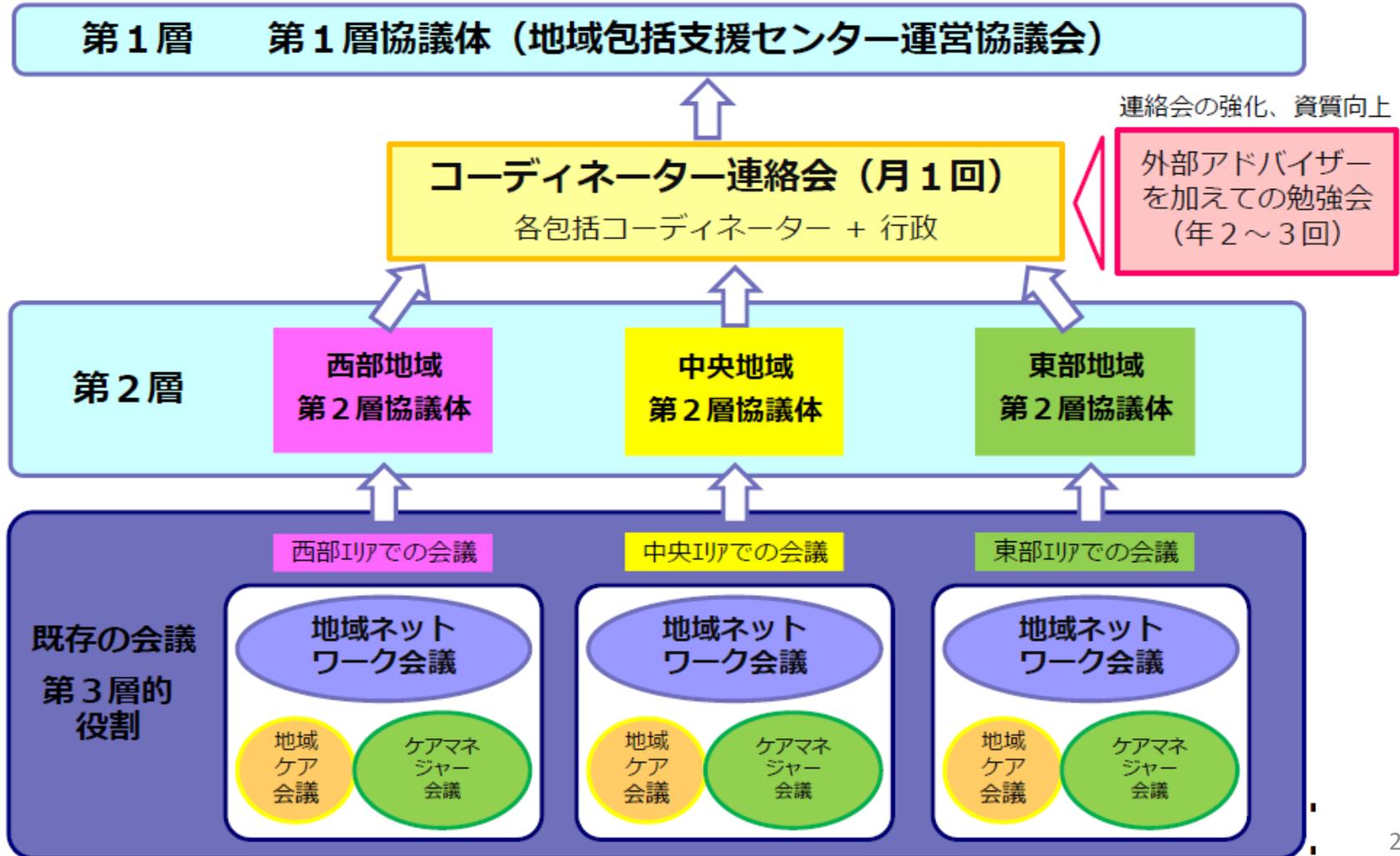
高齢化率 / 25.4%

地域包括支援センター数 / 3箇所

仙台市のベッドタウン、多くの史跡・文化財が
残る二つを顔を持つ。古くからの住民と、
新しく移り住んだ住民が混在する地域



協議体の構成イメージ



東日本大震災の学びから… 平時から「つながる」ことが重要

○ネットワーク構築の実現へ向けて

情報共有の必要性



地域の状況や相互の活動把握

民生委員や区長とのつながりが重要

地域ネットワーク会議 の誕生（平成25年度～）

地域ネットワーク会議の取り組みから
会議に対する理解を得られるまでに時間はかかったが、
☞顔の見える関係ができた
☞あらたな活動(お茶飲み会、認知症カフェ)へのつながりが生まれた

この経験を第2層協議体に生かしていこう

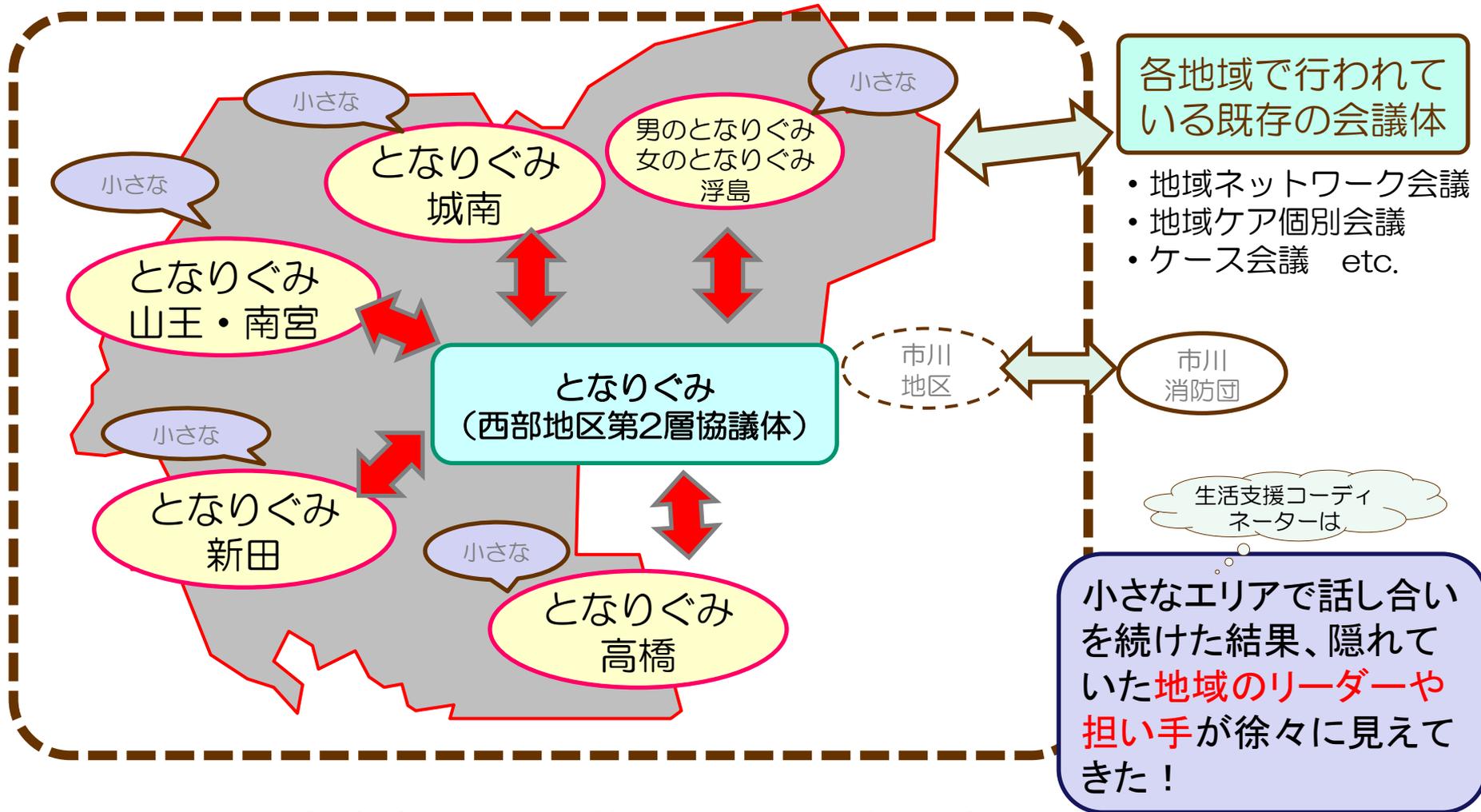


- 協議体の名称
となりぐみ
- 名称の由来
「向こう三軒両隣」の精神を表す
言葉を簡潔にしたもの
- 参加メンバー（10名）
区長、民生委員、老人クラブ会長、
保健衛生推進員、被保険者、
介護保険事業所職員
- 設置時期
平成28年6月～
- 開催頻度
月1回程度
(合同勉強会等により実施しない月もあり)



※この時点では西部包括圏域に設置
(地域ネットワーク会議のように
5地区の設置ではない)

西部地区の第2層協議体と「小さなとなりぐみ」



小さなとなりぐみ(協議体)は毎月開催。メンバーは、地区により多少の違いはあるが、行政区長(現在は区長制廃止により町内会長、民生委員のほか、一般住民で構成。15人前後。会議には包括SC、市担当課職員が参加)

南宮地区のとなりぐみ

山王地区と合同で毎月開催



話し合いは2つのグループで **ワイワイ・ガヤガヤ**
話し合いの後は、毎回**ミニ発表会**を実施

南宮地区・小さなとなりぐみ

話し合いのテーマ「最近、気になっていること」(2019～)

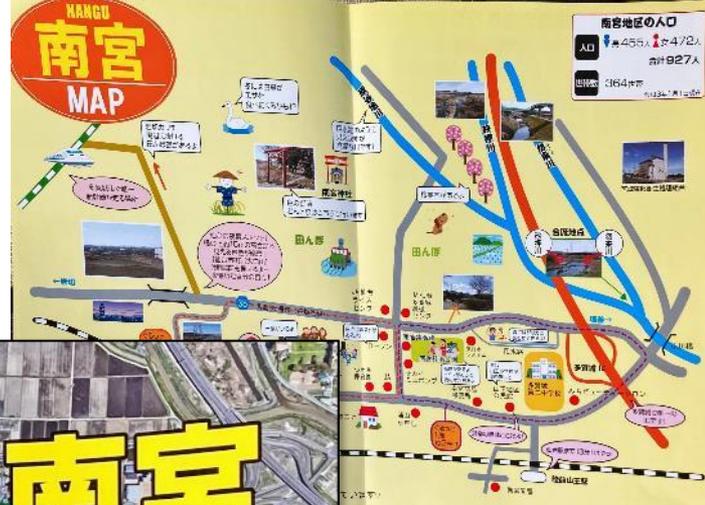
南宮に引っ越してきた(若い世帯など)
人たちと交流がないね

交流の機会を企画しよう。歓迎会を開こう！

新型コロナウイルス感染症による集会や会食の自粛

歓迎会は開けないが、ウェルカムマップをつくって、
全戸に配ろう。転入した方だけでなく、地元の人
も、南宮地区を見直すきっかけになる。

2021.4発行 南宮いろは会発行 共催：自治会



●●●● 南宮地区の主な行事 ●●●●

1月 どんと祭

1月14日南宮神社にて開催。
参拝者には甘酒などが
振舞われます。



9月 敬老会

77歳以上の町民の方にご祝福！
色々な出しものがあります。
おいしい折詰も！



4月 春祭り

子供会共催で行います。
子供神輿が練り歩きます。
ご祝儀お待ちしておりますー



11月 秋の文化に触れる会

防災訓練と合わせて行う事が多く
南宮集会所で行います。
町内の方々の芸術作品を展示したり、
陶芸教室などを開催します。



8月 夏祭り

南宮公園でやぐらを組んで大々的に開催
します！カキ氷やポップコーンが無料！
みんなでワイワイ大盛り上がりです！
最後に本格的な打ち上げ花火にも必見！



11月 防災訓練

消防署、消防団のご協力のもと避難訓練や
救助活動訓練などを行います。炊き出し
(芋煮・おにぎり)を無料で振舞います。
秋刀魚の塩焼きが出ることも！



南宮地区
交流団体

南宮子供会

南宮婦人会

南宮自治会

南宮興農実行組合

南宮いろは会

南宮倶楽部

南宮寿会

十二日会(南宮・山王)

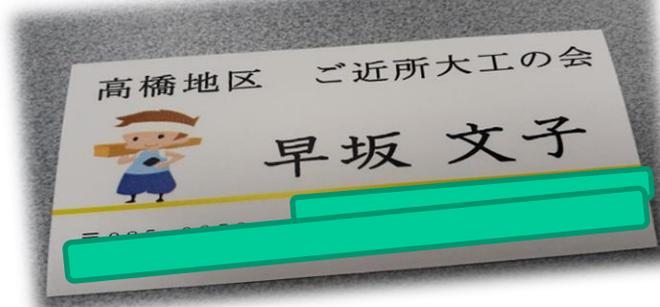
発行 南宮いろは会 共催 南宮自治会

発行



2021.6.12 花壇を畑に！みんなで収穫！ 開催
主催:南宮いろは会 共催:南宮自治会

高橋地区の「ご近所大工の会」



町内会長の引退を機に、大工仕事の得意となりぐみのメンバーの活躍の場づくりと、一人暮らしの高齢者などが抱える日常の不便の解消を考えて立ち上げた企画。男性では会話が弾まず、女性メンバーが同行しておしゃべりすることで、気にかける関係も育む。

宮城県多賀城市西部地域の協議体と地域づくりの広がり

2007 西部地域包括支援センター設置

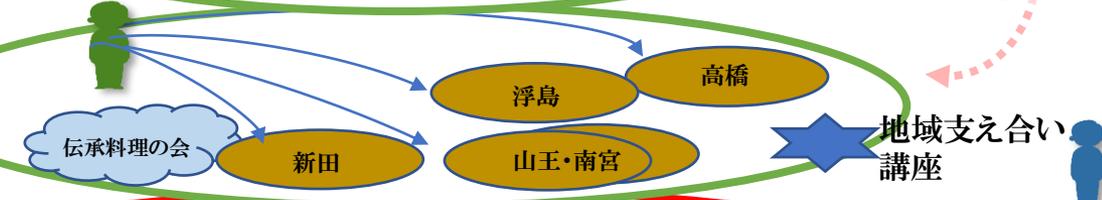
2013～ 区長・民生委員・地域包括支援センターによる地域ネットワーク会議を5地区で開始

2016 2層協議体「となりぐみ」設置

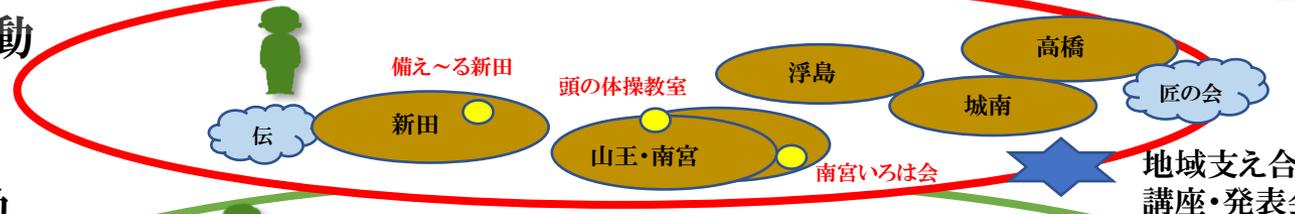


SC勉強会 = お宝さがし

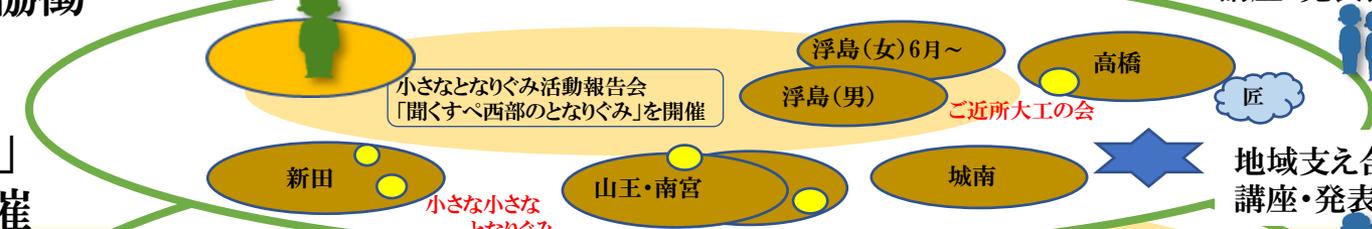
2017 「小さな」となりぐみ活動開始
地域支え合い講座の開催と
参加の働きかけ



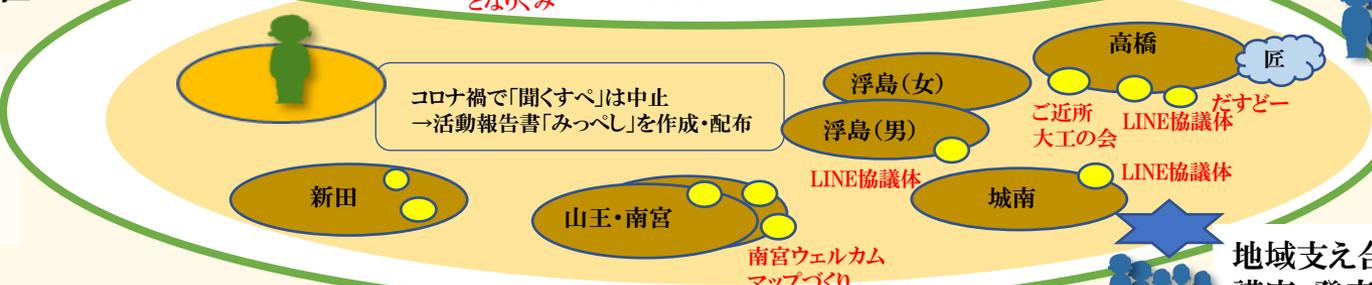
2018 「小さなとなりぐみ」活動
の具体化、人材との
マッチング
専門職との共有・協働



2019 ネットワーク化
「小さなとなりぐみ」
合同報告会の開催

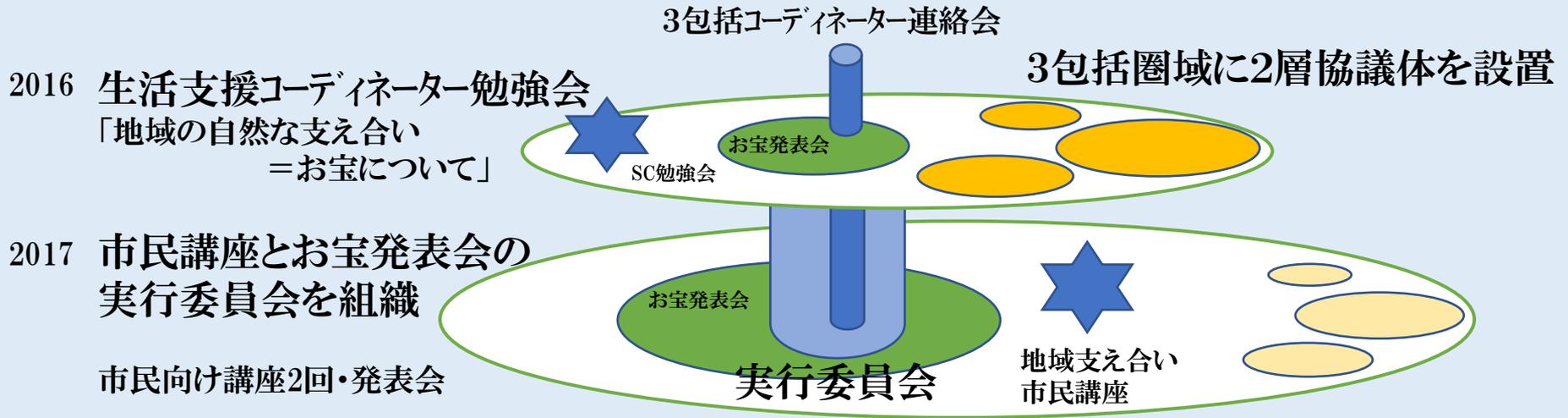


2020 となりぐみ活動の
見える化と
共有の深化



2021.10「聞くすべ」開催。2022年度は西部地区全体のイベント「やっぺし」にしたい。

宮城県多賀城市における生活支援体制整備事業と地域づくりの変遷



2017年は市の各課課長級で実行委員会を組織。

2018年から担当者で構成。地域の情報はSCと実行委員会メンバーが共同で取材。理解が深まり、日常業務の連携も生まれ始めた。



「つながり」はコロナに負けない 地域支え合い講座
お宝事例発表会 (宮城県多賀城市)2021.1.16

私たちが実行委員会のメンバーです

宮城県多賀城市
「住民主体の地域づくりを
広げる事業」実行委員会

2020.01.18

ONE TEAM

よこぐし!

- 多賀城市市民活動サポートセンター 小林雅子
- 多賀城市社会福祉協議会 高橋崇矩
- 多賀城市社協復興支えあいセンター 嵯峨悦子
- 多賀城市自立支援相談窓口(PSC) 中島ゆき子
- 多賀城市西部地域包括支援センター 今野まきこ
- 多賀城市西部地域包括支援センター 宮本範子
- 多賀城市中央地域包括支援センター 大石幸恵
- 多賀城市東部地域包括支援センター 安住智幸
- 多賀城市東部地域包括支援センター 沼倉亜紀子
- 全国コミュニティライフサポートセンター 橋本泰典
- 多賀城市保健福祉部社会福祉課 佐々木文彦
- 多賀城市保健福祉部社会福祉課 福士達也
- 多賀城市保健福祉部生活支援課 遠藤主也
- 多賀城市保健福祉部健康課 村上由記
- 多賀城市保健福祉部健康課 野村巧弥子
- 多賀城市教育委員会事務局生涯学習課 大泉卓也
- 多賀城市総務部地域コミュニティ課 船木嵩雄
- 多賀城市保健福祉部介護福祉課 高橋洋之
- 多賀城市保健福祉部介護福祉課 志賀和博
- 多賀城市保健福祉部介護福祉課 菅野 駿

R3年度は、農務部農政課

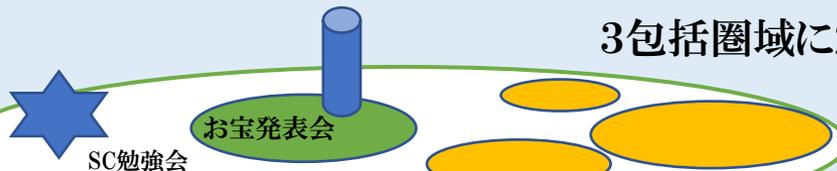
宮城県多賀城市における生活支援体制整備事業と地域づくりの変遷

2013～ 3地域包括支援センターが地域ネットワーク会議を開始

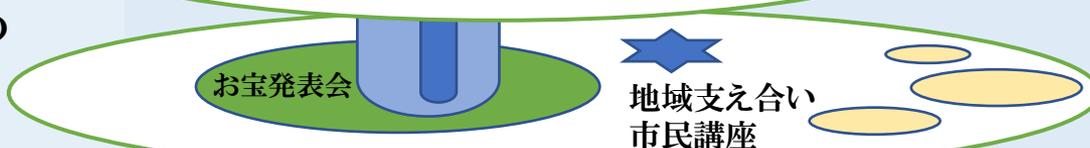
3包括コーディネーター連絡会

3包括圏域に2層協議体を設置

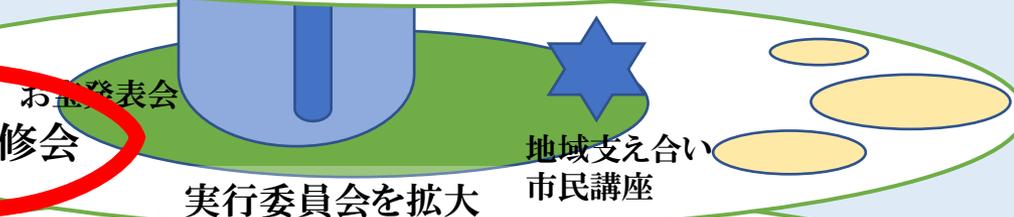
2016 生活支援コーディネーター勉強会
「地域の自然な支え合い
＝お宝について」



2017 市民講座とお宝発表会の
実行委員会を組織
市民向け講座2回・発表会



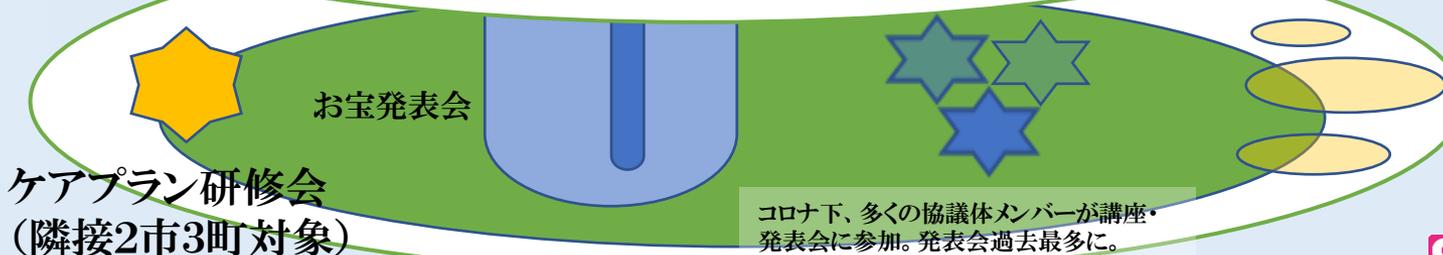
2018 実行委員会を拡大



2019 つながり大切に
するケアプラン
研修会を開催



2020 市民講座を
3地区開催に
変更



多賀城市のポイント

- 地域包括支援センターを民間に委託する際(2007年度～)に、職員を短期間で異動させないことを条件とした。
- 地域ネットワーク会議や第2層協議体(となりぐみや小さなとなりぐみ)にも、市の担当職員が積極的に参加し、現場を孤立させない協働基盤ができている。
- 生活支援体制整備事業を「地域づくり」と位置づけて、「地域のお宝(住民同士のつながり)」探し講座と発表会の運営を担う実行委員会に、市役所の関係課から若手の職員を参加させ、民間の専門職とともに地域のお宝に触れることは、地域共生社会の実現に向けた人材育成となっている。
- お宝探し・発表会で、つながることから気にかけて、支え合う関係が育まれることを、住民も専門職もみんなで共有。
- 地域づくりには時間がかかることを前提に取り組まれていることが、現場職員と地域住民との関係づくりを支えている。

「課題探し」からの出発は、行き詰まりがち！

- 「課題探し」は、その後に「課題解決」という流れがあり、住民にとっては、「やらされる恐怖」「やらされた体験」が先に立つ。
- まずは、『できていること(あるもの)』を「見える化・見せる化」して、その「できていることの意味や価値をみんなで共有する」ことから始める。



「あるもの探し」と「あるもの紹介」は、住民の元気と意欲につながる！
住民の主体形成のきっかけとなる。

【気にかけて合う地域づくり】

人と人が「(顔を合わせる機会が増え) **つながる**」ことから、

「気になる存在」が生まれ、

それが**「気にかけて合う仲」**となって、
ちょっと困ったことがあると、

「支え合い(支えたり支えられたり)の関係」へ



- ご近所(向こう三軒両隣)が気になる
 - いつも顔を合わせる仲間(サロン仲間・趣味仲間など)が気になる
 - 毎日のように電話で話す、ちょっと離れた友人・知人が 気になる
- ★(寝込んでいたら・・・、亡くなっていたら・・・、出火したら・・・と気になる
だから、「声がけ」や「おすそ分け」などで見守る)

★「支え合い」は、嫌いな人とは行われていない★

(← しかし、嫌いな人ほど気になるもの、でもある！)

「支え合い」とは 「適度な迷惑をかけ合うこと」

- なのに、困っても「助けて！」と言えない。
- なのに、困っていても「大丈夫です！」と断ってしまう。



- 実は私たち、助けられることが苦手!!
☞ 「支えられ下手」

たしかに、

- 「迷惑をかけてはいけない」と躰けられ、育った。
- 「人助けは進んでするように」と教育されたが、
困った際には「助けてもらって自分を守る」という術を
学ぶ機会に恵まれなかった。



だから、自分が困っても、「助けて！」と言えない！
一方、「適度」がわからず、
頼り過ぎてしまい、相手が引いてしまうことも！



支えられ上手になるためには、
訓練が必要（「助けて！」と言える）

「助けてもらって自分を守る」という生きる知恵・術を学ぶ

「自分を気にかけてくれる人がいる」!

「助けて!と言える」相手がいる!

↑
家族・親戚の限界 →

↓
職場や趣味などの仲間
友人・知人、近所の人
ちょっとしたお願いができるお店 など

※ 自分の小さな変化に気づいて、自分が「助けて!」と発する前に、声かけやおすそ分けなど、してくれる人がいる

本人は気づいていないかもしれないが、
周りで気にかけてくれている人がいる

← 近所・地域

専門職・専門機関

※ つながりが切れると助けを求める先がなくなるが、相談機関の窓口は、かなり敷居が高い!

◎ 専門職・専門機関が、日ごろから地域につながることで、地域と協働できる

地域づくりのポイント

○ 「楽しいから参加するし、継続する！」

※「課題探しから始めない」「楽しいことのなかに課題解決も散りばめられている」

○ 「専門職も、暮らしにまぜてもらおう」

※「住民同士の気かけ合うつながりを壊さない・つながりを育む支援」

○ 「住民だけでなく専門職も楽しくないと続かない！」

※「専門職が楽しめないものは、住民も楽しくない」「課題探しは行き詰まる」

○ 「住民のできることを奪わない、じっくり待つ」

※「急かさない。急かすと、どうしたらいいかを専門職に委ねることにつながる」

○ 「『主役は住民』でないという意味がない」

※「主体はその地域に暮らす住民」「『住民主体でどうやらせるか！』の不思議」

※ 生活支援体制整備事業で訪問した地域で聞こえてきた住民の声
「役所や社協、包括の人たちがニコニコして地域にやってくたら
気をつけろ！また何かやらされる話だぞ！」

兵庫県宝塚市

(作成:元・宝塚市社会福祉協議会 常務理事 佐藤寿一さん)

受け止める地域づくりのプロセスからわかること

- (1) 住民活動の展開には話し合いの場が不可欠
○課題や現状の共有、対応の検討の場として
- (2) 話し合いの場づくり、活動の展開には時間が必要
○結果を急ぐと支援者側の枠組みに引き込むことになる
- (3) 住民の活動範囲に合わせたエリア設定
○第2層は小学校区もしくは自治会範囲が望ましい
- (4) 地域づくりの主役は当事者や住民
○その地域の生活のプロは地域住民
- (5) 支援者のスタンス
○長期的な視点をもち、支援者側の枠組みを押し付けない
○万全の準備(資料・参加メンバー)と適切な運営支援

兵庫県宝塚市

(作成:元・宝塚市社会福祉協議会 常務理事 佐藤寿一さん)

地域づくりにかかるコーディネーターの支援プロセス

(1) 地域アセスメント

- しっかり見る、聴く
- 人をつながり (リーダー、パートナー、気になる人等々)
- お宝(住民同士のつながり、気に掛け合い、支え合い等)
- つぶやきを逃さない

(2) 信頼関係を作る

- 主人公は地域住民
- やってみたい思いに寄り添う

(3) 話し合いの場を創る

- 課題やお宝の意味付け・共有
- 一緒に学ぶ
- 人と人、人と資源をつなぐ
- ワーカーの運営支援

(4) 計画化と実践

- 協働の場、居場所をつくる
- 出番、役割をつくる
- 専門職のネットワークづくりと主体である住民との協働
- 実践の記録を行い、地域の動き、変化の状況を見える化する

(5) PDCAのサイクルをまわす

- 活動展開の見守りと運営支援
- 活動することで次の気づき生まれる
- 大切なことは皆で話し合うこと

兵庫県宝塚市

(作成:元・宝塚市社会福祉協議会 常務理事 佐藤寿一さん)

地域づくりにかかわるコーディネーターの極意

(1) 「まぜてもらおう」

○地域の活動や普段の暮らしの中にまぜてもらおう

(2) 見つける・意味づける

○地域の人財、資源を見つける

○すでにあるお宝を発掘し、意味付けてわかりやすく伝える

(3) しかけないしかけ

○ワーカーが引っ張らない　こっちの枠組みに引き込まない

(4) 住民・生活者の視点で見れる

○その地域の生活のプロは地域住民

○生活全体を見る、専門性で切り取ってみない

(5) 住民の力を信じる

○できることを奪わない。

○皆でやればできる。だからじっくり待つ